2017 年度点検・評価シート

※下記の指摘事項、課題を踏まえて、Ⅱ点検・評価　Ⅲ【達成目標】欄を記述してください。

（進捗状況を【現状説明】に記述し、必要に応じて新たに【目標】を設定する。）

2016 年度大学評価（認証評価）結果指摘事項 なし
2016 年度外部評価委員会指摘事項 なし
前年度からの課題（2016 年度点検・評価シート Ⅳ次年度への課題 より転記） **4-3-1** 全学共通科目の履修者数上限を 300 名あるいは 200 名にするための技術的問題を再度検討するか（大教室不足の観点からも）。あるいは、中期目標から削除するか。 **4-3-3** 前年度 1 年間の FD 活動の報告を、4 月あるいは 5 月に行う。 **4-3-4** 授業評価アンケートの集計結果の分析を、現在は学部・学科単位で行っているが、「全学共通科目」「英語」「未習外国語」という単位で分析することを検討する。 その他、必要があれば新たな中期目標を検討する。

Ⅰ　評価項目・担当部局

対象部局	東松山キャンパス運営委員会
評価基準 4	教育内容・方法・成果
中項目　4-3	教育方法　　【自己評定 B】
点検・評価項目(1)	4-3-1 教育方法および学習指導は適切か。
評価の視点	教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用
	学生の主体的参加を促す授業方法
点検・評価項目(2)	4-3-2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
評価の視点	シラバスの作成と内容の充実
	授業内容・方法とシラバスとの整合性
点検・評価項目(4)	4-3-4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
評価の視点	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施
	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

Ⅱ　点検・評価　対象期間は 2016 年 4 月～2017 年 5 月までとする。（教員数、学生数などのデータの基準日は 2017 年 5 月 1 日）

【点検・評価項目ごとの現状説明】

4-3-1	全学共通科目の基本科目は主に講義形式で行われている。一部の科目に履修者が集中する傾向があり、教室の最大収容人数 400 を超える場合に抽選を行っている。課題（テーマ）科目は、演習形式の授業、作文添削指導が中心の授業、化学実験など、教育目標と内容に従って多様な形態で行われる。基本科目のなかでも体育科目の実技は実習形式である。 英語およびその他の外国語では、学生同士の対話、数人のグループによる会話、教師と学生の対話、CALL 教室の利用など、学生が自ら発話しやすい環境を整えるために、さまざまな授業形態がとられている。
4-3-1	**以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【　】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。** （1）教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用について【×】 具体的事例： （2）学生の主体的参加を促す授業方法について【×】 具体的事例：
4-3-2	シラバスは、全学共通科目・外国語科目ともに、全学統一の書式によって作成され、学生に公表されている（A4-3-1、B4-3-19）。また、シラバスの内容は、公表前に各分科会（全学共通科目・保健体育・外国語）がチェックしている。英語は学部でチェックしている。 授業内容・方法とシラバスとの整合性については、学生による授業評価アンケートに整合性を問う項目があり、確認が行われている（B4-3-55 d2-表 23）。
4-3-2	**以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【　】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。** （1）シラバスの作成と内容の充実について【×】 具体的事例： （2）授業内容・方法とシラバスとの整合性について【×】

	具体的事例：
4-3-4	全学共通科目等を担当する教員の授業評価は、全学の「学生による授業評価アンケート」で行われているが、アンケート結果は各教員の所属する学部・学科単位で分析・公表されているため、東松山キャンパス運営委員会として分析・公表はしていない（B4-3-26）。しかし、授業内容・方法の改善を図るための組織的研修については、2015 年度に分科会（全学共通科目、保健体育、英語、外国語）ごとの FD 活動計画を立て、2016 年度から実施することになった。
4-3-4	**以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【　】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。** （1）授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施について【×】 具体的事例： （2）教育方法の検証に関する責任主体・組織、権限、手続きについて【×】 具体的事例：

【効果が上がっている事項】

4-3-1	
4-3-2	
4-3-4	

【改善すべき事項】

4-3-1	時間割の工夫などにより履修者が 400 名に達する科目はほとんどなくなったが、200 名を超える科目はまだ少なくない。
4-3-2	
4-3-4	

Ⅲ　【達成目標】目標の進捗状況は、「S：完全に達成」　「A：概ね達成」　「B：やや不十分」　「C：不十分」　で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの		評価				
				2014	2015	2016	2017	2018
中期目標（2014～2018）	4-3-1　全学共通科目の基本科目の履修者数の上限を適正な数に引き下げる。	適正数が全学共通科目分科会の申し合わせ事項として確認され、キャンパス運営員会で承認される。	→			B	B	
	4-3-1　保健体育について、学生の主体的学びを支援するための仕組みを整備する。	学生が主体的に学ぶことができ、自ら到達度を計測できるようなシステムが構築されている。	→			A	S	
	4-3-1　英語のプレイスメントテスト・公的資格試験の導入を拡大する。	プレイスメントテスト・公的資格試験を導入している学部学科が増えている。	→			A	A	
16 年度目標	4-3-3　全学共通科目や外国語科目など、分科会独自の FD 活動を実施する。	FD 活動が東松山キャンパス運営委員会で報告されている。				S		
17 年度目標	4-3-3　全学共通科目や外国語科目など、分科会独自の FD 活動を実施する。（対象期間は 2017 年 4 月～2018 年 3 月）	FD 活動が東松山キャンパス運営委員会で報告されている。					S	

Ⅳ　評価専門委員会所見

4-3-1【改善】　厳しい教室運営のなか大変だと思いますが、履修者数と教室定員数のバランスの改善を今後も期待します。 4-3-3【現状】　分科会ごとの FD 活動について、今後活動の成果があがってきたらシートに反映してください。

Ⅴ　所見への対応

4－3－1　現在、全学的予算事業として全学的なアクティブラーニングの取り組みが進められており、東松山キャンパス運営委員会としてはその状況を把握し、観察している。今後、当委員会としての取り組みその他の対応が必要なものが生じる場合は、これを受ける形で取り組んでいきたい。 4－3－3　今後そのように対応します。

Ⅵ　次年度への課題

大人数科目の対応について具体的施策を検討する。英語科目のプレイスメントテストについては、４－２項目の中で検討を進める。

本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

A4-3-1　　大東文化大学・大学院シラバス（CD-R） 大東文化大学ホームページ（Web シラバス） http://www.daito.ac.jp/campuslife/syllabus/index.html　　≪既出≫A4-2-16 A4-3-2　　大東文化大学学則　≪既出≫A1-1 B4-3-19　　2016 年度シラバス（授業計画）の作成依頼について B4-3-26　　大学ホームページ 授業評価アンケート報告書 http://www.daito.ac.jp/information/examine/inspection/jugyohyoka_houkokusho.html B4-3-54 東松山キャンパス運営委員会議事録 B4-3-55 大学データ集　≪既出≫B1-22
〔追加資料〕